

はじめに

郵政省の調査によると、携帯・自動車電話の加入契約者数（PHSを含む）は、6000万人を突破しているといえます。これは国民の2人に1人が使っているというまさに国民的必需品といっても過言ではない凄い数字です。また、今や2300万人を超える人が携帯電話からインターネットにアクセスし、さまざまな情報を入手する時代になってきました。

そして、この本の本題である次世代携帯電話の登場で携帯電話の機能はさらに多様化し、動画転送や音楽・ゲームの配信はもちろんのこと、テレビ電話や電子マネー、家電のリモコン装置としても機能するであろうといわれています。また、次世代携帯電話は日々の生活だけでなく経営やビジネス手法も変えると期待されています。すでに松下電器産業では社長以下、全役員や幹部がiモードを持ち、簡単な連絡だけでなく会議や取引先との会合調整など、ビジネスツールとして活用しているといえます。動画転送などが容易になる次世代携帯電話の時代になると、ビジネスの現場でさらに有益なツールとして活用されるのは間違いないでしょう。

そもそも次世代携帯電話とは何でしょうか？ 次世代携帯電話の正式名称はIMT 2000 (International Mobile Telecommunication-2000) といひ、世界中で利用可能な移動体通信システムの国際規格のことを指します。簡単にいいますと、現行のiモードなどのインターネット対応電話をバージョンアップして高度な情報を扱えるようにし、世界中で使えるようにしたもので

す。

実はこの次世代携帯電話のサービスは、世界に先駆けて2001年5月よりわが国のNTTドコモにより行われます。当初は、東京23区程度のエリアから始まりますが、徐々に全国展開されていきます。次いで、Jフォンが2001年10月から、KDDIグループが2002年からサービスを開始していく予定です。欧州や米国でのサービス開始はさらに遅れる予定ですので、この次世代携帯電話のビジネスは、まさに日本がパイオニアとして進めていくサービスなのです。

2010年になると、次世代携帯電話はさらに進化していき、携帯電話自体に自動翻訳機能がついて世界中の人とコミュニケーションができるようになったり、ビルの入室管理や電子決済の確認システムとして一般化するのではないかと予測されています。また、在宅学習や遠隔医療も携帯電話で高度化されるでしょう。衛星を介した位置確認情報サービス（GPS）によって老人や子供の位置確認も容易になると考えられています。そのほか、今の私たちの予想もつかないようなサービスが実現していることでしょう。

郵政省電気通信審議会「情報通信21世紀ビジョン」の最終答申を見ると、移动通信関連のマーケット全体では、98年に約5兆円だった市場規模が2005年には、約14兆円、2010年には約21兆円にふくらむと予想されています。

次世代携帯電話を中心にしたモバイルビジネスは、今まで関係のなかった業種、企業をも巻き込んで、大きな市場を作っていきます。欧米に遅れをとったIT革命を一気に進め、巻き返すだけでなく、日本経済復活の強力な“てこ”となるキーファクターとなるのです。

人と人との音声によるコミュニケーションから、iモードの登場により携帯電話はインターネ

ット端末、しかも持ち運びできる総合情報端末に進化しました。次世代携帯電話の登場で、世界共通で使えるモバイルマルチメディア機器を世界中の人が手に入れることができ、その自在な情報サービスによって、より多くの人が豊かな人生を送ることが期待されているわけです。

本書は、モバイルビジネスに何の関わりもないと思っただけで、是非読んでいきたいと考えています。次世代携帯電話の登場で、世の中はさらに変わっていくことでしょう。すべてのビジネス、サービスがモバイル化していくことで、すべての人に関わってくるのです。

本書を送り出すために、多くの関係者のご労苦をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

2001年1月吉日

編者